

# 和白干潟を守る会 2016年度活動報告

和白干潟を守る会事務局

## 2016年度のまとめ

1988年に「和白干潟を守る会」を発足して、今年4月で29年が経ちます。大切な和白干潟の自然を未来の子どもたちに残すために、自然観察会や和白干潟まつり・クリーン作戦・鳥類、水質、砂質調査・和白干潟通信やパンフレットの発行・ホームページでの広報など、さまざまな活動を絶え間なく続けてきました。2013年には和白干潟を守る会の活動が日本ユネスコ協会連盟により「プロジェクト未来遺産」に登録されています。「博多湾・和白干潟のラムサール条約登録を求める請願書」は、皆で集めた署名を添えて3月頃に福岡市議会議長に提出する予定です。昨年11月には「日本湿地ネットワーク」の呼びかけで、全国の干潟や湿地の保全団体が一緒に環境省にラムサール条約登録への要望書を渡して要請を行いました。11月の「第28回和白干潟まつり」では「ラムサール宣言」を採択し、環境大臣や福岡市長、県知事に届けました。ラムサール条約に登録されるためには、和白干潟が国指定鳥獣保護区の「特別保護地区」に指定されなければなりません、まだ国指定鳥獣保護区の普通地区のままです。「第28回和白干潟まつり」は雨でも開催できました。初めて海の広場と集会所の2会場に分かれての開催になりました。一昨年度には「四季の和白干潟の自然さがし」を行いました。それをもとに昨年度はリーフレット「四季の和白干潟の自然Ⅰ」を作りました。観察会に生かしていきたいと思います。引き続き昨年度は雁ノ巣海岸で「四季の和白干潟の自然さがし」を行いました。これをもとにリーフレット「四季の和白干潟の自然Ⅱ」作成を目指しています。

ミヤコドリは過去最高羽数の21羽が飛来しました。クロツラヘラサギは19羽、ツクシガモは208羽を確認しました。昨夏の高温のためか、昨秋はアオサの発生が少な目でした。その代わりにアサミドリシオグサの大量発生が起きました。干潟に堆積したアサミドリシオグサは、冬に低温になっても分解せずに干潟に残っています。アオサが少なかったためか、今冬はハマシギ等のシギ・チドリ類が多く飛来しています。

「山・川・海の流域会議」の活動では、立花山・唐原川・和白干潟の保全グループが連携して保全活動を続けています。2016年は和白干潟の湧水の講演会、唐原川の清掃活動の他、「唐原川を歩こう」の企画をしましたが、当日雨のため和白干潟から途中の下原公民館までのウォーキングになりました。活動への企業や学校の支援が増え、「クリーン作戦」への参加が増加傾向です。日本ユネスコ協会連盟の仲立ちの企業も継続して参加されました。大学は特別講義を企画され、多彩に協力していただきました。2016年度もすばらしい活動ができましたと思います。

今年度も和白干潟を守る活動に、皆さまのご協力をお願いします。和白干潟がぜひ「ラムサール条約登録湿地」となるように希望を持ってがんばりましょう！自然豊かな和白干潟を、みんなの努力で未来の人たちに渡したいと思います。引き続き若い人たちの活動への参加を心から待っています！

和白干潟を守る会 代表 山本廣子

活動方針1. 和白干潟環境教育プログラムによる「自然観察会」、「クリーン作戦と自然観察」、「和白干潟まつり」「学習会などの企画」を通して、多くの市民、特に若い世代や子どもたちに和白干潟の自然の大切さを認識してもらい、自然保護の気運を高める。

### 1. 和白干潟観察会

2016年4月に観察会グループミーティングを行い、観察会の案内状を保育園、小中学校、高校、公民館等へ送付した。観察会の依頼を受けると、事前に下見・打合せを行い、観察会に来る学校等でパンフレットやビデオを使った事前学習をしてもらった後、観察会を実施した。

2016年度中（1月～12月）の和白干潟自然観察会は、年間16回で、延べ678名の参加があった。学校関係からの依頼では、保育園3回（香椎保育所、ちどり保育園、玄海風の子保育園）128名、小学校2回（和白小学校）230名、中学校1回（筑陽学園中学）80名、高校1回（柏陵高校）54名、短大1回（精華女子短大）40名、合計8回、532名あった。和白小学校では、2月末に毎年まとめの発表会があり、守る会のガイドなど参加している。その他に、「チームエナセーブ未来プロジェクト」、緑の党などの和白干潟の観察会が2回、延べ65名あった。また、昨年から企画した「四季の

和白干潟の自然さがし」では、4回、延べ55名の参加があった。これらの他に、和白干潟保全のつどいとして「和白干潟の生きものやハマボウを見る会」を7月に開催し、48名の参加があった。

ガイドの固定化と高齢化の問題に対しては、即戦力となる新規入会者も現れ、改善の傾向にある。ガイドの知識の向上と共有化を図るために、昨年から四季に応じたフィールド研修「四季の和白干潟の自然さがし」を始めている。

## 2. 和白干潟の自然観察ガイド講習会

和白干潟の自然の特性を良く理解して観察会の案内が出来るように、10月2日に第19期「和白干潟の自然観察ガイド講習会」を開催し、21名が参加した。

熊本大学教授逸見泰久氏を講師に招き、和白干潟の底生動物、特にカニや貝を中心に20年間の変化について学んだ。今年から参加費を安くしたことで会員以外の参加者が増え、3名の方が守る会に入会された。

## 3・和白干潟のクリーン作戦と自然観察（毎月第4土曜日）

毎月第4土曜日午後3時から5時まで、海の広場から唐原川河口、和白4丁目の範囲をその時の状況に合わせて清掃し、同時に自然観察、水質や、砂質調査を実施した。

定例のクリーン作戦は、年間12回、延べ408名が参加し、1,285袋のゴミを回収した。定例のクリーン作戦の他に、自然観察会、臨時の清掃などに延べ213名が参加し、394袋を回収した。全体では延べ621名が参加し、1679袋のゴミを回収した。この内、守る会人数は、延べ165名だった。

| 年度      | 活動項目   | 回数     | 延べ人数<br>(人) | ゴミの量<br>(袋) |
|---------|--------|--------|-------------|-------------|
| 2015    | クリーン作戦 | 12     | 546         | 1,763       |
|         | その他    | 6      | 378         | 603         |
|         | 合計     | 18     | 924         | 2,366       |
| 2016    | クリーン作戦 | 12     | 408         | 1,285       |
|         | その他    | 6      | 213         | 394         |
|         | 合計     | 18     | 621         | 1,679       |
| 増加割合(%) |        | 100.0% | 67.2%       | 71.0%       |

粗大ゴミでは、今年も自転車、タイヤ、浮き、寝具、家具類、流木など、様々な物があった。定例のクリーン作戦では、企業や城東高校や学生の参加が少なく、全体の人数も減った。16年は高温で雨が少なく海水温度が上がったためか？アオサの発生が少なくそれに伴い回収するゴミの量も減ったが、アサミドリシオグサが夏前から異常に多く発生した。

総括すると、参加総人数は昨年の約67.2%ゴミの量は約71パーセントとなっている。(上表参照)

- ・4月25日(土)のクリーン作戦は「干潟を守る日」と「春のビーチクリーンアップ」に参加。
- ・5月15日(日)は「ラブアースクリーンアップ」に参加。
- ・9月24日(土)のクリーン作戦は「国際ビーチクリーンアップ」に参加しゴミデータ調査を実施。ゴミデータ調査には毎年、九州産業大経済学部宗像ゼミの協力があり、力になっている。依然プラスチック類のゴミが多い。

## 4. 第28回和白干潟まつり

第28回は、11月27日(日)雨天のため2会場に分散して開催し、約350人の参加があった。初めての事態で、海の広場に観察会用テントを設置するとともに近くの集会所室内でバザー、展示、ステージを実施した。室内配置図を用意しなかったため混乱し、出店者には迷惑をかけた。野鳥観察はテント内に望遠鏡を設置し49種観察、自然あそび、植物観察、干潟の生き物観察も実施できた。開会式、閉会式は室内で行い、ステージの盛り上がりなど出店者同士の交流と位置づけた成果はあった。ラムサール宣言も新聞に掲載され、まつり全体の様子はJCOMが取材撮影、放映された。講師、出演者、出店者、守る会スタッフなど参加者全員の干潟を守る思いで雨天にもかかわらず継続して開催できたことはよかった。全体的に雨天、分散開催としての準備体制、運営の不十分さがあり、テントの借用から見えてきた問題など課題としてあがった。

5. 和白干潟に関する様々な学習会や見学会等を企画して、会員のみならず、広く一般市民が和白干潟の価値と保全の必要性を学ぶ機会を増やす。その一環として、和白干潟のアオサの再利用について実践的な検討を開始する。

1月には「四季の和白干潟の自然さがし(海の広場周辺)」の冬の自然さがしを実施、引き続き4月から「雁ノ巣編」を実施している。ガイドの育成研修と同時に一般市民の参加も呼びかけ、新しい参加も増えた。昨年の成果をまとめ、リーフレット「四季の和白干潟の自然(海の広場周辺)I」を編集、イオン環境財団の助成を受けて11月に1万部発行した。四季それぞれの鳥、植物、生き物を会員の写真で紹介している。

アオサの再利用は会員の菜園で定着しているが、今年アオサの発生が少なく対外的なアピールはで

きなかった。

活動方針 2. 和自干潟の大切さと保全の必要性を広く社会に訴えるため、和自干潟を取り巻く自然環境の変化について、干潟及びその周辺の生物の調査、漂着ゴミ調査などの活動を継続し、調査結果を公表する。

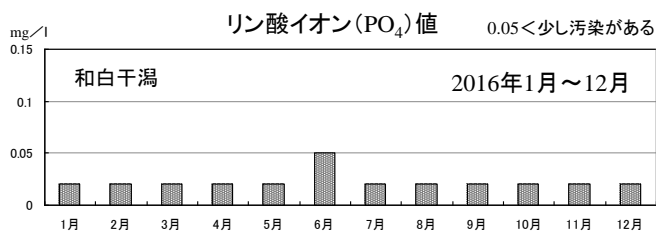
## 6. 調査

調査項目としては毎月実施する水質調査及び砂質調査、9月の国際ビーチクリーンアップ参加でのゴミ内容調査のほか、水鳥調査などを実施した。水質に関して、新たに唐原川と和自川を調査地点に加えて観測を開始した。

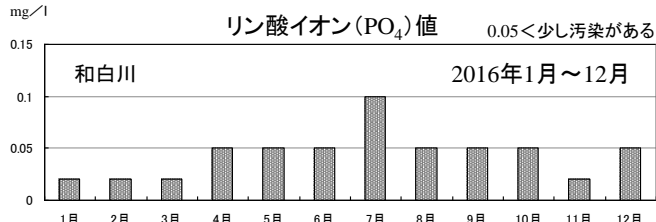
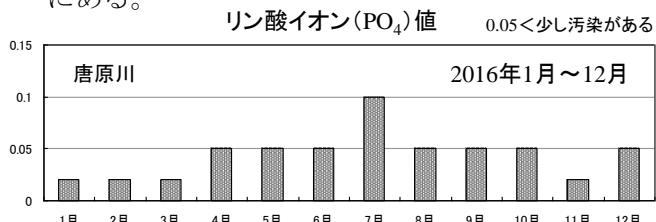
### (1) 水質調査（毎月1回実施）

①リン酸イオン値（ $PO_4$ ）は海水中のリンの状態を示すもので0.05以下は「きれいな水」であること、0.05～0.2は「少し汚染がある」状態であることを示す。

- 和自干潟では、年間を通して0.05以下であり、比較的きれいな状態であった。

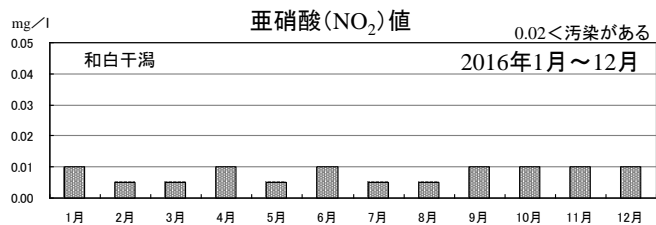


- 唐原川、和自川は、和自干潟に比べると汚れており、7月には0.1を示しており、少し汚染がある状態にある。

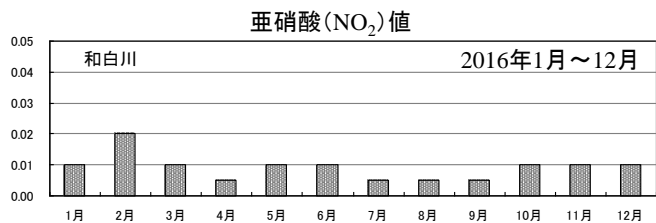
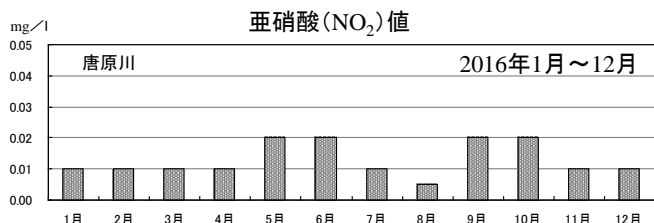


②亜硝酸値（ $NO_2$ ）は海水の窒素の状態を示すもので、0.005以下は「きれいな水」、0.005～0.02は「少し汚染がある」、0.02～0.05は「汚染がある」状態を示す。

- 和自干潟では年間を通して0.01以下であり、水質は少し汚染がある状態である。

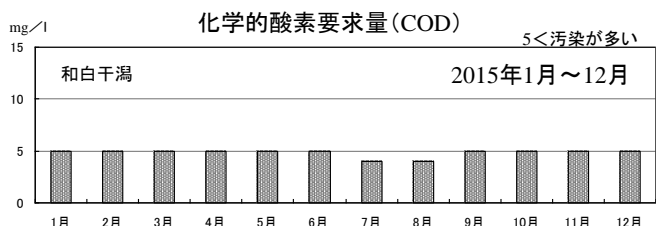


- 唐原川、和自川は和自干潟に比べると汚れており、少し汚染がある状態ではあるが、唐原川の方が汚れが多い。

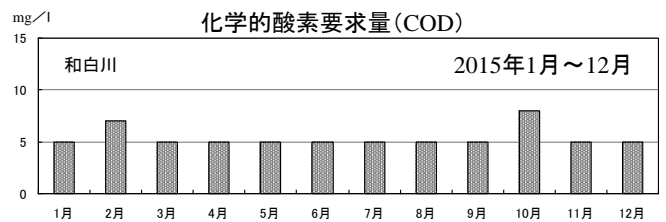
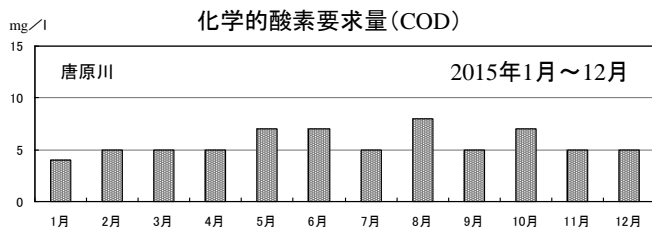


③化学的酸素要求量（COD）は水の汚れ具合を示すもので、2以下は「きれいな水」、2～5は「汚染がある」状態、5～10を「汚染が多い」としている。

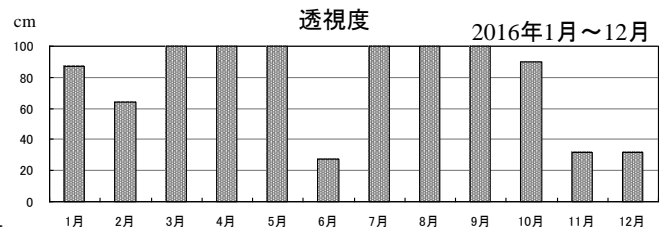
- 和自干潟では年間を通して5以下であり、水質は汚染がある状態である。



- 唐原川や和自川では年に何度か5を越えることがあり、和自干潟に比べると汚れが多い。和自川と唐原川では唐原川の方が汚れが多い。



④透視度については、以前は通常30cm位であったが2016年度は何度か30cm台があるものの、2015年度に続き100cmが多く、良い状態が多かった。



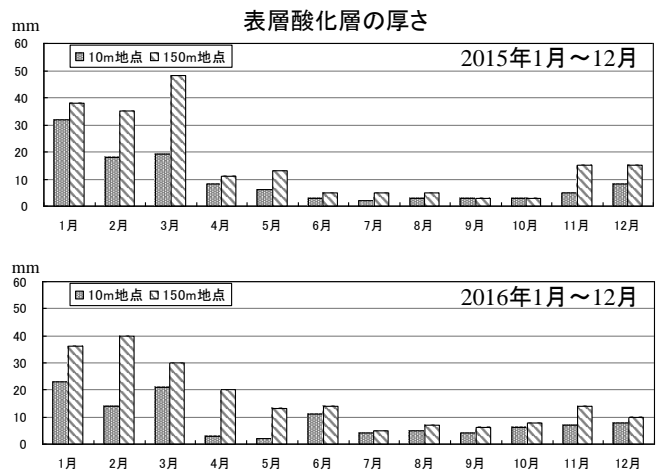
(2) ゴミ内容調査

9月の国際ビーチクリーンアップにて、干潟に漂着したゴミを回収して内容調査を実施した結果、34種類のゴミが回収された。今年は台風16号の降雨のせいかわペットボトルや飲料缶が特に多かった。この調査には、毎年九州産業大学の宗像ゼミに協力していただいている。

(3) 砂質調査

和白干潟・海の広場前10m地点と150m沖合地点の表層酸化層の厚さと還元層の黒色度を測るものである。表層酸化層が厚いほど干潟が健康な状態にあることを示す。

右のグラフは、2015年度と2016年度の表層酸化層測定結果である。沖合いの方が厚い傾向にあるが2016年度はアオサの大量発生がなかったことで昨年と比べると少し良くなっている。

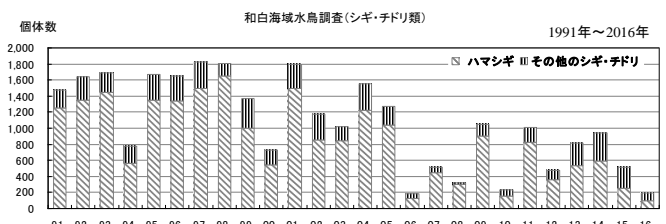
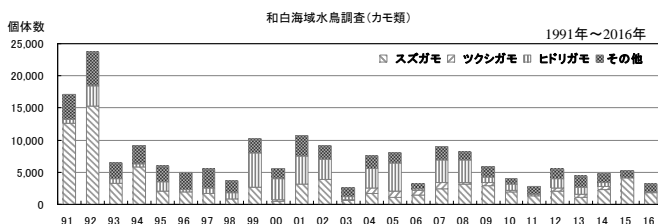


(4) 鳥類調査

鳥類調査では以下の調査に協力した。

① 1月 和白海域水鳥調査（日本野鳥の会福岡支部・IWRB 国際水禽湿地調査局）2016年1月10日に実施。

和白海域の水鳥の越冬数（和白海域水鳥調査）は、カモ類は前年の5,266羽より大きく減少し、最多の1992年の23,719羽と比べて約7分の1の3,149羽に減少した。シギ・チドリ類は前年の524羽より大きく減少し、90年代の約1,600羽から191羽に減少した。調査参加者は10名。

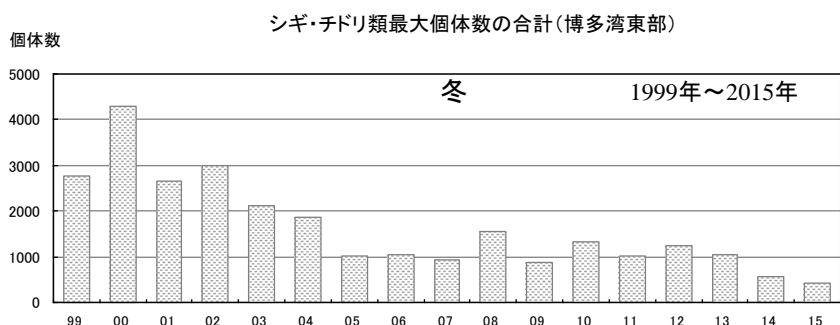
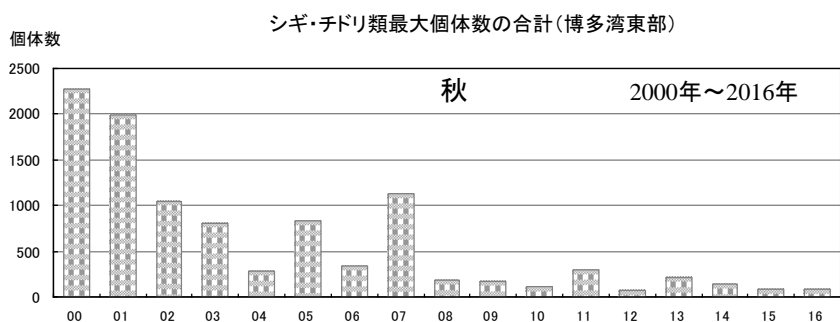
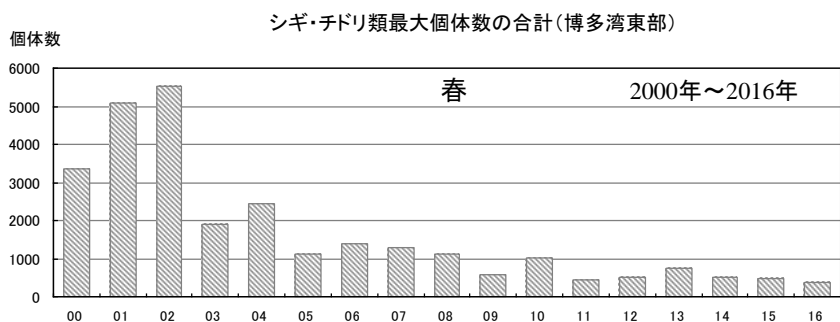


② 環境省モニタリングサイト1000シギ・チドリ調査（環境省・NPO法人バードリサーチ）  
冬期：2015年12月、2016年1～2月 今津と博多湾東部各3回実施

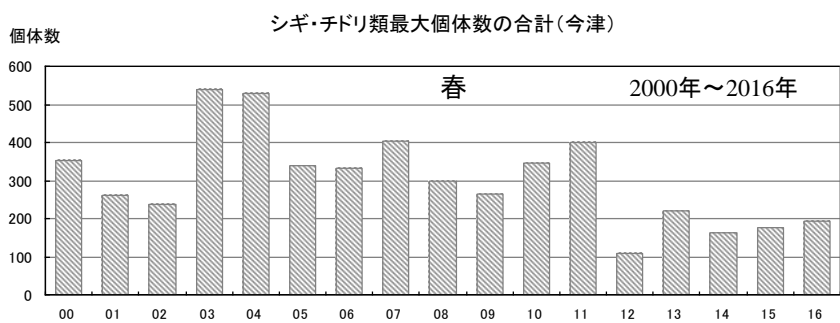
春期：2016年4月～5月 今津と博多湾東部各3回実施

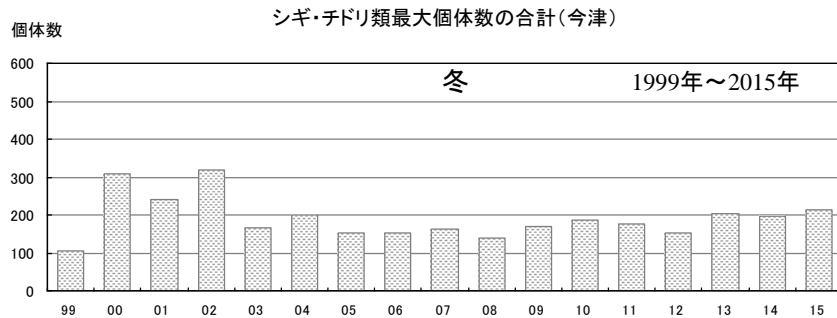
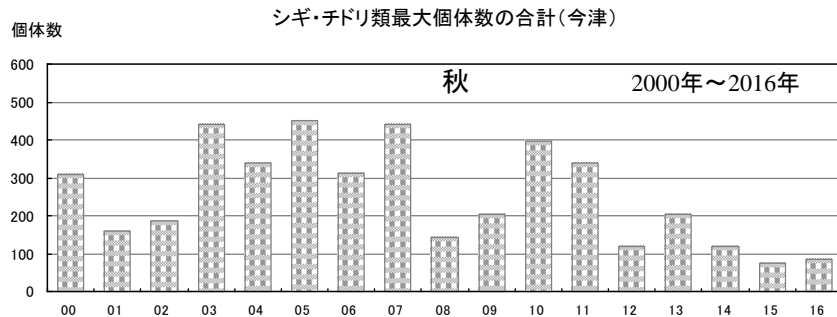
秋期：2016年8月～9月 今津と博多湾東部各3回実施

博多湾東部海域のシギ・チドリ類最大数合計は、2015年度冬期は2000年の4,300羽から4,25羽に減少し（昨年570羽）、2016年春期は2002年の5,509羽から376羽に減少（昨年485羽）。2016年秋期は2000年の2,271羽から85羽に減少した（昨年80羽）。希少種では、冬期にクロツラヘラサギは最大17羽（昨年19羽）、ツクシガモ236羽（昨年122羽）、ズグロカモメ0羽（昨年2羽）を確認した。



今津のシギ・チドリ類最大数合計は、2015年度冬期は2002年の319羽から215羽に減少し（昨年198羽）、2016年春期は2003年の538羽から193羽に減少（昨年175羽）。2016年秋期は2005年の450羽から84羽へ減少（昨年117羽）。希少種では、冬期にクロツラヘラサギは最大20羽（昨年21羽）、ツクシガモ62羽（昨年70羽）、ズグロカモメ13羽（昨年12羽）を確認した。





(※ 博多湾東部と今津のグラフの個体数については単位が違うことに注意！)

この20年ほどで博多湾東部の鳥類は大きく減少した。今津は減少状態である。2015年の鳥類調査参加者は、毎回8名から15名、延べ87名が参加。また一斉調査以外にも個人で調査を行った。鳥類調査担当者が高齢化などで減少している。調査協力者を求めている。

※ミヤコドリは2016年9/29に1羽観察(初認)、10/6に4羽、10/13に7羽、10/22に11羽、10/30に14羽、11/13に17羽、12/3に19羽、2017年1/5に20羽、1/8に21羽(過去最大羽数)を観察した。(2015年は最大17羽)

クロツラヘラサギは2016年9/21に5羽観察(初認)、10/22に10羽観察、10/30に19羽観察した。(今期最大羽数、2015年も最大19羽)

活動方針 3. 貴重な鳥類をはじめとする生物多様性に富む和白干潟を「ラムサール条約登録地」とするための取り組みを強化する。博多湾の自然を壊す人工島などの公共事業には厳しい監視と関心を持って対処する。今ある自然を壊さないこと、壊れた自然は元の自然に戻すことを目指す。

和白干潟の生態系を守るために、山・川・海の流域連携に取り組み、地域の自然再生への取り組みを進める。和白干潟を守る会の活動をより広く知ってもらい、活動への参加者、賛同者を増やすために広報活動を強化する。

## 7. ラムサール条約2018年度登録を目指し、行政、議会、市民に向け活動に取り組む。

2015年11月から2016年12月まで福岡市議会宛に「150万都市福岡に自然と共存する『博多湾・和白干潟のラムサール条約登録』の早期実現を求める」請願署名に取り組んだ。1月から12月までは月2回、3箇所(西鉄香椎駅周辺、JR福工大前駅周辺、JR千早駅周辺)で街頭署名活動に取り組み、市民と対話しながら訴えかけ4773人分の署名を集めた。3月議会に提出する予定。

## 8. 福岡市の環境政策、開発計画に対し、情報収集、学習、意見交換、提言に努める。

### (1) 福岡市の政策についての取り組み

- ① 雁ノ巣ヘリポート建設環境アセスメント周辺地域騒音調査地点に和白干潟も含まれていたため、7月末の騒音調査実施日に状況を視察した。渡り鳥の飛来する季節での調査でないため、影響はわからない。
- ② 「和白干潟近くの香住丘4丁目護岸工事」について、区役所から説明を受け、野鳥への影響の少ない時期に工事を終了するようアドバイスしたが、業者の決定が遅れ、まだ着工していない。

### (2) 福岡市との連携

- ① 「和白干潟保全のつどい」で、月1回、他団体とともに情報交換、イベントの開催などについて意見交換を行っている。担当のほか会員も随時参加している。今年は5月に初めて「保全のつどい干潟観察会」を実施し樹林帯、湿地、植物、湧水など現状を共有した。イベントとして7月に

は「和白干潟の生き物やハマボウを見る会」を実施、48名参加。9、10月には「アオサのお掃除大作戦」を2回実施、全体で121名が参加、約3トンのアオサを回収した。今年は猛暑が続いた影響かアオサは少なかったが、アサミドリシオグサが多かった。12月には「バードウォッチング」を実施したが、雨天のため参加者は21名だった。雁ノ巣砂洲で有毒な外来植物「ナルトサワギク」を守る会が発見したことを報告し、人工島で繁茂していることから抜き取りを求めたが、まだ不十分である。また、和白干潟周辺の雨水幹線工事などについて当該部局より説明を受けた。

②「エコパークゾーン水域利用連絡会議」は2月末に2015年度第1回が開催されたにとどまった。守る会は山本代表が委員として出席、2名が傍聴した。夏に実施されていたボートによる監視活動は行われなかった。

③福岡市主催の「ラブアースクリーンアップ」は今年25年目を迎え、5月15日開催。和白干潟では高校生中心に115名が参加し、134袋のごみを回収した。

## 9. 「山・川・海の流域会議」の他団体と連携して、立花山・唐原川流域・和白干潟の保全活動や観察会などに取り組む。

1月新春講演会は海藻研究所所長新井章吾氏を講師に、「和白干潟の命のつながり」をテーマに開催した。3月九産大野生動植物研究会主催の「立花山自然展」開催に和白干潟を守る会が共催した。6月第4回「唐原川お掃除し隊」では、九産大前中流域から上流域を清掃、九産大生を中心に45名が参加した。8月には、小学生対象の「唐原川ふれあい環境教室」を九産大野生動植物研究会と共催し、川の生物観察をサポートした。10月の観察会「唐原川を歩こう」は河口から三日月山を目指したが、途中雨のため中止し、下原公民館にて交流会を実施した。11月の和白干潟まつりにはパネル展示や環境小物販売を行った。定例会議を2ヶ月に1回開催しているが、構成団体立花会は3月に解散し、個人で継続されている。

### 10. 和白干潟を守る会の活動を担うスタッフの確保に努める。

観察会、鳥類調査、署名活動、イオンイエローレシートキャンペーンなど高齢者の活躍もあって、和白干潟を守る会の活動は成り立っているが、会員の高齢化が進み、クリーン作戦、干潟まつりなど体力を必要とする活動で団体会員・環境サービスの会員が大いに活躍された。今後も若い会員の加入、活動参加が急務である。ちなみに(株)環境サービスは2016年度福岡市の第8回環境行動賞・最優秀賞を受賞された。第1回受賞の和白干潟を守る会の会員が受賞したことは守る会としても朗報である。

ボランティア募集は「あすみん」、イベントごとの広報で参加呼びかけをし、クリーン作戦への一般参加は増えている。

### 11. 2018年に創立30周年を迎える和白干潟を守る会の記念事業について検討を開始する。

「四季の和白干潟の自然さがし」を雁ノ巣編として継続企画し、リーフレット「四季の和白干潟の自然I(海の広場周辺)」発行をひとつの30周年事業のスタートとした。次年度は雁ノ巣編のまとめとしてリーフレットを編集、発行予定である。さらに編集会議を引き続き「和白干潟を守る会30年誌」編集会議として機能させる。

### 12. 広報の強化について

#### (1) 和白干潟通信・ホームページ・リーフレット類

①和白干潟通信は1月117号、4月118号、7月119号、10月120号を各5,000部ずつ発行した。干潟通信は(公財)イオン環境財団の助成金を受けて、ロータリー印刷(株)で作成した。今年から新年号(1,8面のみカラー印刷)以外の通信は号ごとに紙色を変える工夫をし、アピール度をアップした。配布先は、会員、マスコミ、行政関係、和白干潟付近の家庭、クリーン作戦、自然観察会参加者など。発送作業はみんなで行っているが、参加者が減少傾向にある。配布ボランティアは25名である。

②ホームページは、4名が分担し編集している。最新活動報告をブログに、年間を通して対外活動、行事予定、和白干潟の自然情報など、写真も豊富に更新をタイムリーに行い発信している。

③「クリーン作戦と自然観察お知らせポスター」は、東区役所、公民館、郵便局、周辺大学(福工大、九産大、福岡女子大)、ホームセンターなどにも掲示依頼している。

④リーフレット類は、新規発行が「四季の和白干潟の自然I」1万部(86枚の写真で構成、A34つ折)。

#### (2) その他

①イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」への参加

イオン香椎浜店で、毎月11日にボランティア団体支援のイエローレシート投函を呼びかけるキ

キャンペーンに参加し、9年目となった。レシートの買い上げ金額の1%相当額が団体に寄付され、4月には1年間のギフトカードを寄贈される仕組み。毎月3～4人、年間延べ38名が参加し、守る会の通信やイベントのチラシを手渡しして守る会の活動への賛同を呼びかけ、多くのレシートを取得し、活動資金獲得とともに活動のアピールにつながっている。

#### ②写真展の開催

昨年につき、「第2回和白干潟の写真展」を東市民センターロビーにて2月末から3月にかけて、3週間開催した。季節ごとの鳥や植物の写真展示は和白干潟の自然の豊かさを紹介できて好評だが、東市民センターは香住丘から千早に移転することとなったため、この場所での開催は最後となった。

### 1.3. 講演活動

- (1) 1月9日「九州産業大学経済学部特別講義（宗像ゼミ主催）」山本代表
- (2) 1月22日「福岡教育大学附属福岡小学校5年生対象の講演」山本代表
- (3) 5月24日「香椎ふれあいサロンで講演」山本代表
- (4) 11月9日「香住丘小学校5年生対象の講演」山本代表
- (5) 12月10日「九州産業大学経済学部特別講義（宗像ゼミ主催）」山本代表

### 1.4. 情報の発信：新聞や雑誌、他団体の会報等に鳥情報、和白干潟の紹介を発信

- ・日本自然保護協会に年間スケジュール表送付、自然保護誌に和白干潟のクリーン作戦と自然観察、ガイド講習会、和白干潟まつりの掲載を依頼。
- ・自然関係4誌にガイド講習会、和白干潟まつりの案内記事を依頼。
- ・新聞各社に「四季の和白干潟の自然さがし」の案内掲載を依頼。
- ・あすみんHP、メールマガジンに和白干潟まつり、ガイド講習会、自然さがしの案内掲載を依頼。
- ・くすだひろこきりえ展「和白干潟の自然」（レストラン花ももで5/6～5/31）を開催し、パンフレットや通信を配布。
- ・ガイド講習会、四季の和白干潟の自然さがし、和白干潟まつりのチラシとポスターを作成、コミセン和白に掲示依頼した。
- ・JAWAN通信に山本代表が和白干潟報告の原稿を執筆した。
- ・第28回和白干潟まつりについて新聞4社、TV局5社、JAWANメールに案内。ミニコミ誌7社に情報提供、3誌が掲載。
- ・ミヤコドリ、クロツラヘラサギの飛来について新聞各社に情報提供し、新聞に掲載された。
- ・チームエナセーブ未来プロジェクト観察会とクリーン作戦の取材を新聞4社とTV局4社に依頼。
- ・福岡市環境局に年間活動予定を送り、HPの干潟を守る会の情報を点検修正し、送付した。
- ・環境省シギ・チドリ調査サイト紹介HPのアンケートに回答送付。

### 1.5. 取材協力：新聞社、テレビ局、雑誌などからの取材に協力

- ・博多新聞からの取材に協力。掲載された。
- ・JCOMの和白干潟を守る会の活動についての取材を受け、代表インタビュー、第28回和白干潟まつりの取材撮影に協力、放映された。
- ・月刊誌「花菜の森から」の取材に協力した。

### 1.6. 対外団体との交流活動、協力・参加活動

- (1) 和白海岸定例探鳥会 毎月1回「和白海岸探鳥会」で日本野鳥の会福岡支部に協力している。
- (2) JAWAN、JEAN
  - ① JAWAN「干潟を守る日2016」参加。4月クリーン作戦と併せて実施し、2016年和白干潟宣言を出した。6月愛知県豊橋市で開催されたJAWAN総会とシンポジウムに山本代表が参加。運営委員を継続する。11月JAWAN「ラムサール条約登録を求めて環境省に要望書提出と交渉活動」に山本代表が参加した。
  - ② JEAN「国際ビーチクリーンアップ（春・秋）」に参加した。4月はクリーン作戦と併せて実施。9月はクリーン作戦と併せ、漂着ゴミ調査を九産大 宗像ゼミとともにいった。
- (3) 日本自然保護協会
  - ① 「日本自然保護大賞」に博多湾・和白干潟の保護活動で2年連続で入選した。
  - ② 自然しらべ「海辺で花しらべ」に参加、和白干潟と雁ノ巣外海で実施。結果報告。
- (4) グリーンコープ生協ふくおか福岡東支部  
第28回和白干潟まつりを共催した。
- (5) 福岡市ボランティア交流センター「あすみん」4月に新「あすみん」開館式に代表が出席。HPなどへの情



報提供を継続し、ボランティア登録した学生などがクリーン作戦に参加している。

- (6) 蒲生を守る会 機関紙交流を続けている。「日本自然保護大賞・東北復興貢献部門大賞」を受賞された。
- (7) 東区から玄海原発の廃炉を考える会 趣旨に賛同し、福岡市議会への請願署名活動に協力、干潟まつりでの展示も継続。
- (8) 日本野鳥の会埼玉支部 ラムサール署名に支部をあげて協力いただき、9月に20名で和白干潟を見学。
- (9) 元加賀市長大幸氏が和白干潟を訪問された。

## 17. 「和白干潟を守る会」の運営に関して

### (1) 定例会議・総会

原則第4土曜日に守る会の事務所で「定例会議」を11回開催。2月は「総会」を開催し、同日に臨時定例会議を開催した。総会で1年間の活動のまとめ、会計報告、新年度活動方針、予算等を決め、定例会議では会の活動に関する報告、予定を共有し、重要な事項は全員で意見交換して決定した。定例会議出席者は各回13~17名、平均14名が出席している。また必要に応じて事務局会議を開催した。

### (2) 事務局体制と役割分担

会の活動にあたって、定例会議に出席している事務局メンバーはできるだけ様々な活動を分担することとしている。15年度より会計の日常管理と帳簿管理を2人体制で分担しているが、16年度は帳簿管理者が交代した。観察会、鳥類調査担当、水質・砂質調査担当、干潟まつり実行委員も補充した。また、望年会には16名が参加し、親睦を深め、大掃除には16名が参加した。いずれも担当責任者を決め適材適所の人材活用に努めた。

### (3) 助成

イオン環境財団から助成金を受けた。

### (4) 寄付

- ①イオン九州(株)から「幸せの黄色いレシートキャンペーン」によりギフトカードを寄付いただいた。
- ②あいおいニッセイ同和損保KK福岡支店より寄付いただいた。
- ③日本ユネスコ協会連盟より寄付いただいた。
- ④和白東レインボークラブ連合会より寄付いただいた。
- ⑤MS&ADホールディングスより寄付いただいた。
- ⑥住友ゴム工業(株)より寄付いただいた。
- ⑦会員や一般市民、観察会、干潟まつり、望年会オークション等でカンパをいただいた。

### (5) 2016年度末の新規会員

個人： 8名、団体： 1

### (6) 2016年度末会員数(新規会員含む)

個人会員： 250名

団体会員： 14団体

## 18. パンフレット類の在庫 (2017年1月現在)

- ・和白干潟を守る会リーフレット 4,792
- ・和白干潟の自然案内(和文) 7,249
- ・和白干潟の自然案内(英文) 528
- ・環境教育シリーズI(環境教育プログラム) 1,656
- ・環境教育シリーズII(水鳥、底生生物、植物図鑑)和文 6,900
- ・環境教育シリーズII(英文) 461
- ・環境教育シリーズII(韓文) 78
- ・和白干潟観察マップ・年間スケジュール表 毎年印刷
- ・和白干潟を守る会封筒 0
- ・ラムサール条約と和白干潟 247
- ・未来につなごう和白干潟~和白干潟を守る会20年の歩み 17
- ・四季の和白干潟の自然I 9,000

## 19. その他

- ・海ノ中道海浜公園委託の鳥類調査に協力(毎月1回) 4名